

取組名	子どもの生活安全教室
取組の特徴	安全教育の充実・・・山口市における「子どもの安全意識向上サポート事業」の一環として
幼稚園名	山口市立秋穂幼稚園

取組の概要

- 1 日時 平成24年6月13日(水) 10:00～11:00
- 2 場所 山口市立秋穂幼稚園 保育室
- 3 指導者 山口南警察署 生活安全課 河上係長
- 4 参加人数 園児20名、職員5名
- 5 内容

不審者対応について学ぶ。

DVD「Kin-Qキッズ おたすK隊」を見る。

- きほんのき
- 「誘拐されないためにはどうしたらいいの」
 - ・自分で考えなくちゃ。
 - ・自分の体は自分で守る。
 - ・安全は自分で守るんだ。
- 隠れた危険を見つけよう。
 - ・・・通学路、通園路
- 誘いや罠を見破ろう。



お話と実地指導

- 大声で叫ぶ。・・・大声を出す練習
- 噛み付いて逃げる。
- ナンバープレートを覚える。・・・た43-21だけでも良い。
- 防犯グッズ(ブザー・ホイッスル等)
- 名前が書いてあると名前を呼ばれるおそれがあるので、名前が外から見えないようにする。
- 知っている人のふりをするのでだまされない。
- こわいめにあわないために「いかのおすし」の指導を受けた。

- 「イカ」・・・行かない
- 「の」・・・乗らない
- 「お」・・・大声で叫ぶ
- 「す」・・・すぐ逃げる
- 「し」・・・知らせる



- 6 その他
降園時には、職員が保護者に「イカのおすし」のパンフレットを渡して、不審者対応の指導を受けたことを伝え、注意を呼びかけた。

取組名	親子で学ぶ安全教室（AED講習）
取組の特徴	泥んこ遊びの前に、親子で水遊びに対する安全教育をし、AEDの使い方を学ぶ。
幼稚園名	下関市立豊東幼稚園

取組の概要

日時 平成24年5月30日（水） 9：30～11：30
 場所 地域の公共施設（グリーンセンター） 及び 田んぼ
 参加者 園児30名 保護者30名 職員4名
 指導者 豊浦東消防署菊川出張所より救急救命士2名
 内容 ○園外保育や水遊びに対するの安全教育を行う。・・**園児対象**
 ・これから夏に向けて水遊びが活発になるが、一人では川遊びをしない。
 ・おぼれている人を見つけたら、すぐに大声で大人に知らせる。
 ・危険な場所では、遊ばない。
 ・道路は歩道を歩き、横断の際には車に気をつける。 など
 ○人工呼吸およびAEDの使い方を学ぶ。・・**保護者対象**
 ・実際に我が子をモデルにして、練習する。
 ○近くの田んぼを利用して、泥んこ遊びをする。・・**親子**

子どもが溺れたと想定して、人工呼吸をやってみよう！



A子ちゃん、A子ちゃん！
吐いたものが気管に入らないように気をつけて

AEDを使ってみよう！



怖がらないで、
やってみましょう

いいですか？
今から道路を渡って
田んぼまで行きます。
集団のお約束をしっかり
守って行動してください。



安全に気をつけて、楽しい泥んこ遊び



考察

・これまでも安全教育は機会をとらえて行っていたものの、親子別々の指導だった。今回初めて、園外保育（地域の田を利用しての泥んこ遊び）に組み込んで計画した。
 【安全指導→訓練→泥んこ遊び】という一連の流れで行ったことで、安全教育の目的がより一層はっきりしたようだ。
 ・人工呼吸・AED用の人形だけでなく、我が子を対象に練習したことで、保護者の真剣な取組の姿が伺われた。
 ・幼児にとっても、これまでは危険をイメージして室内での指導だったものが、園外に出て実地訓練をしたことにより、一層危険と向き合う気持ちが出てきたように思う。これからも家庭との連携を深めながら指導を繰り返し、親子で安全な生活に対する意識を高め、命を守る力を身に付けさせたい。

取組名	安全教育
取組の特徴	自分の身は自分で守ろう ～危機回避能力を高めよう～
幼稚園名	周南市立菊川幼稚園

取組の概要

本園では3歳児・4歳児・5歳児と学年ごとに毎月交通安全指導を行っている。
特に年長児については就学を見据え、「自分の身は自分で守る」ことができるよう、下記の取組を行っている。

- 1 交通安全指導
- 2 KYT資料を利用した指導
- 3 運動あそび・チャレンジタイム

『実践事例』

◎ KYT資料を利用して

どんな場面だろう？

どんな危ないことがあるのかな？

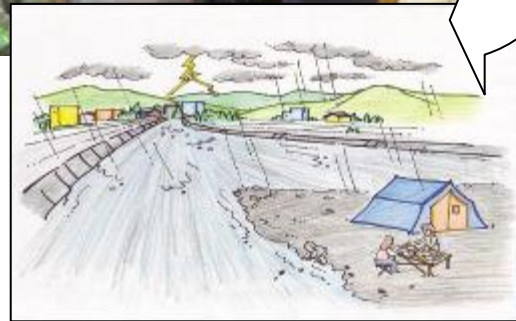
どんなことに気をつければいいのかな？

- ・ 自分の体験を振り返ったり、場面を見て考えたりする。
- ・ 友達の意見を聞くことで発見があり、自分だったらどうするだろうと考える。

◎ 運動遊び（月に1回）

◎ チャレンジタイム（週に4回）

敏捷性・柔軟性・瞬発力・リズム感・持久力
などねらいに応じた遊びを計画的に取り入れる。



『成果と課題』

- 様々な運動遊びを計画的・継続的に行うことで、安全な動き方や上手な体の使い方ができるようになってきた。
- 年長児の取組を3歳児・4歳児が見たり真似たりすることで、園全体としての安全意識が高まっている。
- 今後もさらに具体的な場面を想定しての安全指導と、楽しく体を動かす遊びの充実を通して自分の身は自分で守れる心身を育てていきたい。

11月（園庭3周・前跳び30回・後ろ跳び30回）

取組名	『防災教育について考える』
取組の特徴	幼保小合同避難訓練
学校名	下関市立川棚幼稚園・川棚保育園・川棚小学校

取組の概要

- 1 目的 地震発生による津波発生を想定した緊急の避難訓練を近隣の幼保小で実施し、発生時に迅速かつ安全に共同して避難できる態度を身につける。
- 2 日時 平成24年11月22日（木） 10：00～11：15
- 3 対象 川棚幼稚園・川棚保育園・川棚小学校・教職員
- 4 ねらい 危険な場所が分かり、災害などの緊急時に、職員や保護者の指示を受けて、落ち着いて素早く行動できるようにする。
- 5 地震の想定
地震・・・震源：響灘沖 震度5以上を越える相当の揺れが長く続き、レベル3に相当するため、水道山へ二次避難を行う。



◎ 川棚幼稚園、川棚保育園、川棚小学校共に標高6,4m.のところにあり、川棚地区の多くが低地にある。そのため津波が発生した場合、一次避難場所から二次避難場所である水道山への避難が必要になってくる。今回の幼保小合同避難訓練では、分担・実施の手順・避難行動要領・行動順序など幼保小が統一した計画案を元に避難訓練を実施した。

◎ 今後も幼保小が合同で行うことにより、危険箇所を共通理解したり、職員同士が川棚地区の子ども達の安全への意識を共通化したり、常に情報の共有を行うなどして連携していく。